

江崎浩司 V.エイク「笛の楽園」全曲録音プロジェクトによせて

第6回

僕とエイクと楽園と Koji Ezaki



CD「笛の楽園Vol.2」江崎浩司

いよいよ2018年1月17日にCD「笛の楽園Vol.2」(発売元: フォンテック)が発売になります。No.20~36までが収録されています。今回のCDには有名曲が多く、「笛の楽園」を初めて聴かれる方でもスッと入りやすい曲が並んでいます。その中でもNo.28「イギリスのナイチングールEngel Nachtegaeltje」は大人気の曲。鳥の鳴き声の曲として確固たる地位を築いています。ナイチングールは「夜鳴きうぐいす」と訳され、夜に美しく鳴くそうです。ヨーロッパに分布し春の鳥として知られます。イギリスからエイクのいたオランダに伝わったこの作者不詳の曲には、なんと英語歌詞付きが存在しています。このメロディに歌詞を付けて歌うなんて驚きですね。「時代遅れの人々がいるなか、自分の意識を高め、改革のためにハイドパークまたはトッテナム宮に行く勇敢なあなた。私の歌を聴きに来て。音楽的に素晴らしいナイチングールの甘い声があり、小さくも可愛く、美しくも穏やかなフィロメル(ギリシャ神話でフィロメラがナイチングールに化した)を聞くのです。ナイチングールはどうやって森中を響かせるのか。Sweet,Sweet…Jug,Jug(ナイチングールの鳴き声)…ナイチングールは歌う」(1633年7月8日ロンドン、書籍商台帳、Rollins Index no.1943)4番まである歌詞の1番目をご紹介しましたが、全てSweet以降がリフレインになっています。メロディが先にあって、それに誰かが歌詞をつけたのでしょう。No.115「ナイチングールDen Nachtegael」にも同曲が登場しますが、メロディが1小節足されています。オランダのうぐいすはイギリスとは鳴き声がちょっと違うのか、はたまた

オランダ語歌詞をつけると1小節多くなるのか、理由ははつきりしませんが、どちらも素敵な曲です。

No.20「私の恋人シレ」Amie Cillaeはパンプーリコーダーで演奏しました。素晴らしい音色のこの楽器はアジアに分布し、アイルランドのティン・ホイッスルに起源をもちます。曲調も魅力的でファンも多いと思います。No.33「カムアゲイン Comagain」はイギリスのJ.ダウランドの歌曲が原曲です。冒頭のC音は、もともと歌ではなく伴奏の音で、他にも音価が原曲と違うところがあります。イギリスからオランダに伝わった時点ですでにこのように変化してしまい、エイクはそれを採用したのでしょうか。変奏も4つあり工夫が見られることから、エイクのお気に入り、と考えられます。No.30「レンテルー Lanterlu(風刺唄)」は、権力に対する批判的内容の風刺唄が原曲。背景が深く、かつ印象的な内容なので、演奏にもそれを反映しました。詳しくはCD「笛の楽園Vol.2」にてご覧下さい。

Vol.3は2018年6月に発売予定です。No.37~58までを網羅します。この番号希望の方は、4月末までにお申し込み頂ければ、特典付きで友の会に参加ができます(左ページ参照)。ラブ・ソングと思われるNo.37「私の魂の光Lus de mi alma」、有名曲No.47「戦いBatali」、男と若き女の会話が背景にあるNo.55「ヤンネマンとアーレムーア:塩漬けニシンJanneman en Alemoer」など盛り沢山。全8枚録音のサポートメンバー「笛の楽園・友の会」への参加を随時お待ちしております。

2017年11月 江崎浩司

～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～

江崎浩司(えさきこうじ)■プロフィール

桐朋学園大学古楽器科卒業。第10回古楽コンクール第2位。ブルージュ国際コンクール・アンサンブル部門第2位及び聴衆賞を獲得。ソロCD『海の嵐』『ヘンデル/リコーダーソナタ』がレコード芸術誌特選盤、アカデミー賞ノミネート&朝日新聞特選盤、『テレマン/12のメトーディッシュ・ジナーテンVol.1&2』が2014年レコードアカデミー賞に輝く。NHK『音楽のチカラ』『音楽ブラボー』『名曲アルバム』他テレビ、ラジオに出演。'10年シルク・ド・ソレイユの演奏メンバーに合格。落語とのコラボレーション作品『死神』が文化厅芸術祭ノミネート。日本初の野球オペラ『野球カンタービレ』脚本作曲指揮。ベースボール音楽家としても活躍中。(タブラトゥーラ)(ラ・フォンテーヌ)、(東京都アラベス区)メンバー。昭和音楽大学非常勤講師。江崎浩司公式ホームページ <http://www.ezakikoji.com>



江崎浩司 V.エイク「笛の楽園」全曲録音プロジェクトによせて

第7回

僕とエイクと楽園と Koji Ezaki

2018年1月に発売のCD「笛の楽園Vol.2」(発売元:フォンテック)がレコード芸術誌3月号で、Vol.1に続き特選盤に輝きました!祝!評には「過酷で孤独な作業を毅然とした姿勢で押しすすめ、見事に成就・」。そうなのです、演奏も執筆も独りです。けれど、作者エイクと楽しくキャッチボールしているので寂しくなんかありません。泣いちゃいません、男の子ですから。それでも、評を読んでうるっときました。

CD2枚で36番まで進みましたが、録音はだいぶ先に進み全148曲の半分くらいまで来ています。ここまでくると何かを感じます。曲順の構成として、第1集の冒頭No.1、第2集の冒頭No.89にはプレリュードを、各集の終わりには(No.88&No.148)詩篇曲を配置ということはわかっているのですが、それ以外に曲順の因果関係が見られません。でも、これを音楽日記と捉えると見方が変わってきます。誰しも毎日の生活は起伏に富んでいます。エイクは忙しい人でしたから、今日は誰と会ったとか、何を食べ&飲んだとか、こんな話を耳にしたとか…記憶に留めるという堅いものではなく、印象を音楽にしたのではないか。それも慣れ親しんでいるメロディで。例えば、教会に行って皆で讃美歌を歌った日は歌を書き、鳥の鳴き声が心地良い日は《ナイチンゲール》を、素敵女性に会ったら《ダフネ》を、フランスの話を聴いたら《クーラント》を、泣きそうになったら《涙のパヴァーヌ》を、お酒を飲んだら《酒飲み唄》という風に。盲目だからこそ音楽が日記となった。ある程度書きためて、改めて変奏部分を吟味し完成させた。あくまでも想像ですがエイクの日常を感じるので。発売中のCD「Vol.2」を順に想像すると、美しい恋人を自慢する友人に会い、翌日には政治についての噂を聞き(《から威張り》は或る市長のこと)、次の日教会に行って祈り&歌い、知人の母親からゴロツキ息子の相談を受け、他人の別れ話を聞き、美味しいフランス料理を食べ…と、想像が膨らみます。

話変わり、昨年12月17日、神宮球場にて始球式&国歌独奏しました。僕は少年野球および中学は野球部のキャッチャーで、2013年には日本初の野球オペラを作曲指揮。ベースボール音楽家でもあります。寒い日でしたが、球場の青空を

突き抜けたソプラニーノの音色が気持ちよかったです。始球式は、惜しくもキャッチャー手前でショートバウンド。この記念ボールを頂いたのですが、グラウンドの砂がボールに付着していたので、関係者からは「わざとバウンドさせたでしょ」と言われました。ただの白球ではなく、バウンドしたおかげで神宮球場がボールに刻まれたのです。もしエイクだったら「神宮球場にて、力投」というタイトルで日本国歌のテーマと変奏を曲集に盛り込んでいたことでしょう。

「笛の楽園」というエイクの音楽日記はまだまだ続きます。友の会・会員も随時募集しています。CDに皆様のお名前を応援パートナーしてクレジットしてみませんか?現在No.37以降募集中。No.58までは5月GW明けまで。皆様の参加お待ちしております。

2018年3月 江崎浩司



~*~

江崎浩司(えさきこうじ)■プロフィール

桐朋学園大学古楽器科卒業。第10回古楽コンクール第2位。ブルージュ国際コンクール・アンサンブル部門第2位及び聴衆賞を獲得。ソロCD『海の嵐』『ヘンデル／リコーダーソナタ』がレコード芸術誌特選盤、アカデミー賞ノミネート＆朝日新聞特選盤、『テレマン／12のメトーディッシュ・ゾーネンVol.1&2』が2014年レコードアカデミー賞に輝く。NHK『音楽のチカラ』『音楽プラボー』『名曲アルバム』他テレビ、ラジオに出演。10年シルク・ド・ソレイユの演奏メンバーに合格。落語とのコラボレーション作品『死神』が文化庁芸術祭ノミネート。日本初の野球オペラ『野球カンタービレ』脚本作曲指揮。ベースボール音楽家としても活躍中。〈タブロトゥーラ〉〈ラ・フォンテーヌ〉〈東京都アラベス区〉メンバー。昭和音楽大学非常勤講師。江崎浩司公式ホームページ <http://www.ezakikoji.com>



江崎浩司 V.エイク「笛の楽園」全曲録音プロジェクトによせて

第8回

僕とエイクと楽園と Koji Ezaki

2018年3月末、東京都美術館にてブリューゲル一族の絵画が揃った「ブリューゲル展」でコンサートがありました。絵画に寄り添って各時代の音楽を演奏し、僕はリコーダーとショーム（オーボエの祖）を担当。ソプラノ歌手、リュート、ヴィオラ・ダ・ガンバとの共演でした。中でも「聴覚の寓意」には演奏楽器が描かれ、まさにコラボレーション。「地上の楽園」という絵では動植物が活き活きと、生命の喜びを感じます。どちらもヤン・ブリューゲルII世（1601-78）の作で、1624年から一年間のイタリア修行以外はフランドルにて活躍しました。エイク（1589/90-1657）の活躍したオランダ・ユトレヒトにも近く、時代と地域が合います。エイクがなぜ曲集のタイトルを『笛の楽園』としたのか。上記「地上の楽園」からヒントが得られないかと考えます。多くの動植物＝多くの音楽、生命の喜び＝音楽の喜び、と重ね合わせると、エイクが詩篇歌、流行歌、器楽曲など多くのジャンルを盛り込み、その喜びを変奏曲として表現する理由もわかるような気がします。因に、『笛の楽園』に登場する動物としてはNo.28《イギリスのナイチンゲール》、No.115《ナイチンゲール》、No.100《さあ起きて、愛犬ビーグルとグレーハウンドよ》、No.104&144《ヤギの足》、No.120《第2クーラント、または可愛い小さなドロボーさん、どうしてそんなに静かなの?》（原曲はJ.ダウラントの『蛙のガリヤルド』として有名）があります。『笛の楽園』にも動物達が躍動しているのです。

4月末に録音が行われました。これで3回目になりますが、1回につき1.5枚分を収録するため、CDとしては4.5枚分を録音したことになります。全8枚を予定していますので、やっと半分くらいまできました。今回は超絶技巧曲が多く大変な録音でしたが、なんとか終了。腕や指が悲鳴をあげ、目や頭がクラクラ（写真提供：フォンテック）。

5月5日に札幌キタラホールで親子向けライブがありました。多くのお客様にいらして頂きありがとうございます。No.115《ナイチンゲール》も網羅してバロックからジャズまでの楽しいプログラム。ブラボー!の声も頂きました。リコーダーコンテストでは強豪校の母校、札幌市立西野中学校リコーダー部の皆様もいらして頂き、懐かしい面々にもお会いして録音の疲れ

癒されました（写真提供：札幌コンサートホールKitara。写真は、悪ガキ共がやってきた風の演奏シーン）。



7月には『笛の楽園Vol.3』が発売になります。前回までと同じく様々な楽器を演奏していますが今回はルネサンス・ソプラニーノ・リコーダーとバンブーリコーダーD管が初登場。音色の幅が広がっています。No.47『戦い』では遠くから吹き歩き、次第にマイクに近づく演出もあり、No.55『ヤンネマンとアーレムーア：塩漬けニシン』では男女の会話をバスリコーダーのタンギングで表現するなど、新しい試みが満載です。ぜひブックレットを読みながら聴いて頂けたら嬉しいです。

笛の楽園・友の会も随時入会希望承っております。現在No.59以降を募集中。No.69までは今年11月末までにお知らせ頂ければ、2019年1月発売のCD Vol.4にお好きな名前をクレジットできます。タイトルで選んでも良し、お好きな数字で選んでも良し、ぜひご検討下さい。

2018年5月 江崎浩司

江崎浩司(えさきこうじ)■プロフィール

桐朋学園大学古楽器科卒業。第10回古楽コンクール第2位。ブルージュ国際コンクール・アンサンブル部門第2位及び聴衆賞を獲得。ソロCD『海の嵐』『ヘンデル／リコーダーソナタ』がレコード芸術誌特選盤、アカデミー賞ノミネート＆朝日新聞特選盤、『テレマン／12のメトード・ディッシャ・ゾナーテン Vol.1&2』が2014年レコードアカデミー賞に輝く。NHK『音楽のチカラ』『音楽プラボ』『名曲アルバム』他テレビ、ラジオに出演。'10年シルク・ド・ソレイユの演奏メンバーに合格。落語とのコラボレーション作品『死神』が文化庁芸術祭ノミネート。日本初の野球オペラ『野球カンタービレ』脚本作曲指揮。ベースボール音楽家としても活躍中。〈タブラトゥーラ〉〈ラ・フォンテーヌ〉〈東京都アラベス区〉メンバー。昭和音楽大学非常勤講師。江崎浩司公式ホームページ <http://www.ezakikoji.com>



江崎浩司 V.エイク「笛の楽園」全曲録音プロジェクトによせて

第9回

僕とエイクと楽園と Koji Ezaki

2018年7月発売の『笛の楽園Vol.3』がレコ芸9月号にて特選盤に輝きました! Vol.1~3まで連続V3達成! 加えて優秀録音も頂きました。「…どの楽器も自家葉籠中といった演奏ぶりに感嘆…確信をもった演奏までの艱難辛苦は並大抵ではないはずだ。その先にある輝かしい音楽的な広がり、多彩さを伝える僕(しもべ)であるかのような演奏者の熱い思い、そして何より音楽の豊穣である。」「私達は歴史的壮挙の進展に現在形で立ち会っている…アーティキュレーションや音色の変化を駆使して展開する《戦い》は今回の白眉だ。」など嬉しい内容に加え、以前シリーズで発表した『空飛ぶ笛Vol.1~3』(コジマ録音)にも触れた文章もあって有頂天になった次第であります。

さて、喜んでばかりいられません。『笛の楽園』は約120の旋律による150曲の曲集であり、その制作動機や曲数の謎を現在追っているところです。私の推理も含めて各ブックレットは連続ものとして文章を書いており、来年1月発売予定のVol.4には決定的な瞬間が訪れる予定です。

さて、V.エイクの親戚にはC.ホイヘンスHuygens(1596-1687)という有名な政治家がありました。ホイヘンスは音楽愛好家で幼い頃から歌、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リュート、鍵盤を習い、彼自身の説明によると800曲以上作曲をしたとか。エイクは『笛の楽園』をこのホイヘンスに献呈していますが、資料によると彼はあまり喜んではいなかったようです。ホイヘンスの大量の楽譜コレクションにこの『笛の楽園』が入ったのは彼の死後1688年。それまでガンバ、リュート、声楽曲がコレクションの大半で管楽器のものは無かったようです。それは、楽器の社会的階層が影響したから、と推察できます。笛は中世の時代から街角や、お祭り、居酒屋などで演奏される野卑なイメージが強い楽器でした。ハーメルンの笛吹き男(1284年、ある笛吹き男が130人の子供達を行方不明にした事件)に代表されるように、笛吹きは人々を魅了し煽動しますが、各地を転々とする放浪樂士。土地を持たないので身分は低く、祭りや集会にて時の政権を揶揄して笛を吹き、人々の心を掴むので、地位の高い者から疎まれる存在でした。時代が進むと、笛吹きは教会等の演奏に

加わることで住まいを確保し、一定の地位を得ましたが、17世紀オランダでは笛のイメージはまだ良く無かったです。それに対して、宮廷でも弾かれたリュート、ガンバなどは品格において、笛とは比べ物にならないほど遠い距離にありました。

そんな時代に『笛の楽園』とタイトルして曲集を世に出したエイク。そこには並々ならぬ思いがあったのではないか。彼が笛を通じて理想とした楽園は単なる曲集ではなく、伝えたい「何か」を含んでいるのではないか。そしてそれは何か。因に、ホイヘンスにまつわる曲がVol.3の冒頭曲No.37『私の魂の光』に登場します。詳しくはブックレットに書きました。

話は変わって、9月半ばに放送のNHK番組「ららら♪クラシック」にちょっとだけ登場しました。「オーボエ特集」の一コマでオーボエの祖先ショームShawmを演奏。私が参加している古楽バンド〈タブラトゥーラ〉の収録済み映像でした。ショームは中世&ルネサンス時代に活躍したダブルリードで『笛の楽園』でも大活躍。ソプラノとアルトを吹いています。リコーダーとは違った音色をお楽しみ下さい。

笛の楽園・友の会、随時入会希望承っております。現在No.59以降を募集中。No.69までは今年11月末までにお知らせ頂ければ、2019年1月発売のVol.4にお好きな名前をクレジットできます。ぜひご検討下さい。

2018年9月 江崎浩司

江崎浩司(えさきこうじ)■プロフィール

桐朋学園大学古楽器科卒業。第10回古楽コンクール第2位。ブルージュ国際コンクール・アンサンブル部門第2位及び聴衆賞を獲得。ソロCD『海の嵐』『ヘンデル/リコーダーソナタ』がレコード芸術誌特選盤、アカデミー賞ノミネート&朝日新聞特選盤、『テレマン/12のメトーディッシュ・ゾーテンVol.1&2』が2014年レコードアカデミー賞に輝く。NHK『音楽のチカラ』『音楽ラボ』『名曲アルバム』他テレビ、ラジオに出演。'10年シルク・ド・ソレイユの演奏メンバーに合格。落語とのコラボレーション作品『死神』が文化庁芸術祭ノミネート。日本初の野球オペラ『野球カンタービレ』脚本作曲指揮。ベースボール音楽家としても活躍中。〈タブラトゥーラ〉(ラ・フォンテーヌ)〈東京都アラベス区〉メンバー。昭和音楽大学非常勤講師。江崎浩司公式ホームページ <http://www.ezakikoji.com>

